

粘膜細胞採取装置

粘膜組織から低侵襲で繰り返し細胞採取が可能

概要

生細胞の体内時計の状態を解析する事で、自身の体調、病気診断や予防に役立つことが期待されている。従来の細胞採取方法は、皮膚生検、脂肪吸引、毛髪採取、綿棒で口腔粘膜からの採取等あるが、いずれも侵襲度が高いという課題がある。本発明は、超音波を用いて粘膜から低侵襲的に細胞採取可能なデバイスに関する。

粘膜組織から繰り返し細胞を採取するため、ランジュバン型振動子、金属棒、流路付き治具を使用し低侵襲の細胞採取デバイスを作製した。ブタ摘出食道粘膜組織から細胞採取実験を行った所、1分間に約3,000個の細胞が採取できた。

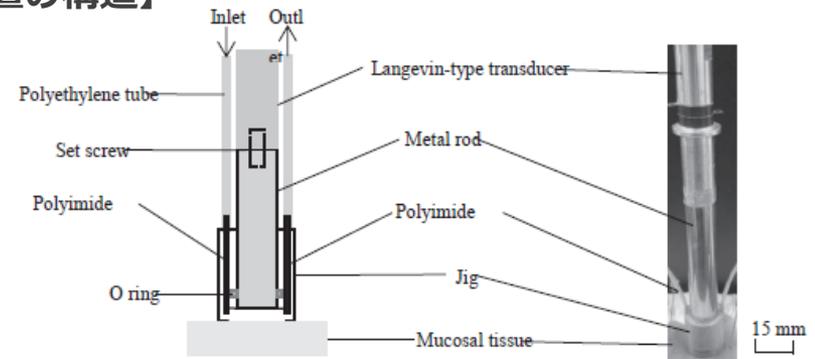
応用例

- 医療機器（細胞採取デバイス）

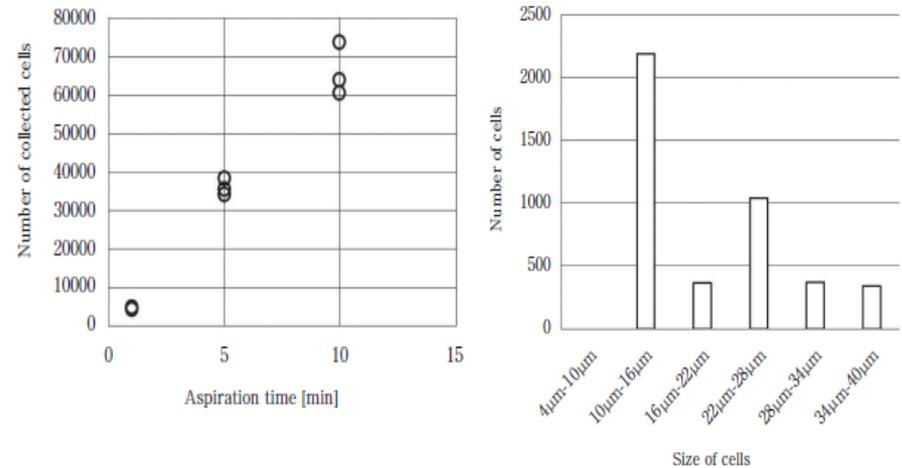
知的財産データ

知財関連番号 : 特願2023-008199
 発明者 : 芳賀 洋一、鶴岡 典子、Y E Y A N G
 整理番号 : T22-103

【装置の構造】



ブタ摘出食道組織からの細胞採取実験



関連文献

[1] J JSCAS, Vol. 24, No. 4 (2023), pp. 217-225

お問い合わせ

本資料をダウンロード



お問い合わせ

<https://www.t-technoarch.co.jp/contact.html>



発明案件を随時更新中

<https://www.t-technoarch.co.jp/anken.php>



LinkedIn ページをフォロー

<https://www.linkedin.com/company/tohoku-techno-arch>



Leading you to Successful Industrialization



株式会社

東北テクノアーチ

TOHOKU TECHNO ARCH